3.あき

板橋富士見幼稚園幼児教育センター長
鍋島　惠美

1. 夏を越した生き物たち富士見生まれ

①コイの赤ちゃん物語　その１

2023 年の春
富士見の池の住人　コイが産卵
わぁ　と驚きと共に卵いっぱい
その中から稚魚が生まれ泳ぎだす

10,000 匹という数
園長先生
早速飼育に必要なものをそろえて
飼育の始まり始まり
そして

秋　赤ちゃんが子どもになって
すいすい水槽の中を泳ぐ　コイの子どももその体格は　それぞれに違う
池の中で育っていた子どもが一番大きい
住み慣れた自然の中だからかなあ…
お母さんお父さんのそばだからかなぁ…

②園庭にデビュウした　イネ　　-おこめ物語なるか!?-

春５月　トロ箱に入った苗が　　秋７月　稲穂がたわむ　これからの稲の育ちを楽しめるように絵本がイーゼルにたてられた環境に子どもが気づき関心を寄せる。

ベゴニアが生き生きと育っている　みんなが運動会に向かって活動する中にのんびりウサギさん何とも言えず愉快な光景がある。こんなユーモアを持った先生がにいる。

2. 保育の合間に**話し合**う -専門性の融合-

運動会に向かって５歳児が取り組む組体操。その組体操が済んだ後に、体操の先生と園の先生とミーティングが始まる。
子どもたちがお部屋に入って次の活動に進んだ中
こうして、反省と評価をしつつ
次へのステップを考えあう時間
隙間の時間を有効に活用して、外部委託の体操の先生と富士見の先生が頭を寄せて話し合う。体操の先生と保育者という専門性を超えて子どものことを共に考えあう。

3. 午後からの保育と環境

園庭に残っている円周のラインが目に入る。午後に園庭が元通りプランターが戻されている。体操の先生が、指導時間後に丁寧に元の位置を確認しつつ戻されている姿を見る。だからこそ、こどもが自由に安全に遊べる空間ができていると感じる。園庭に出てきた子どもが、個々に好きな遊びを展開していく中で、５歳児が先生とリレーをする兆しが見える。他の遊びの子どもと交錯するも、身をかわす加減がなんとも言えず凄い！ リレーが済んで、今度は４歳児が紅白チームに分かれて、全員で玉入れをし始める。子どもの好きな遊びと、クラスの遊びがスムースに一つの限られた園庭で展開される。これも、朝の打ち合わせや先生たちがチームで保育しているから可能なのであろう。自然に時間が流れて見えるが、これまでの富士見の保育のありようを新たな先生を迎え入れつつ、からだと言葉というカタチで伝えておられる

4. 静かに語りかける環境

恐竜に凝っている子
記号にはまっている子
その子の好きなきもちを受けて
先生のこころがカタチになる

5.　こどもが呼びかける　自然な環境　富士見の環境

「えんちょうせんせい」子どもからの誘いにすぐに園長室を飛び出してこどもと対話

いつの間にか
園長先生の足元は
スリッパから靴へ
より子どものなかに
フットワーク軽く！